

宇都宮都市圏交通実態調査について

1 調査の目的・意義

本市における都市整備は、平成4年に国・県・関係市町が実施した宇都宮都市圏総合都市交通体系調査をもとに、平成8年に策定した「宇都宮都市圏の都市交通マスタープラン」に即し整備を進めてきたところである。当該調査から20年以上が経過し、本市を取り巻く社会環境が大きな転換期（人口減少など）を迎えるなか、本市が目指す将来都市構造の妥当性についての定量的な検証や今後の都市計画等の検討のために、本調査を実施するものである。

2 調査範囲・・・裏面参照

宇都宮市、鹿沼市、日光市、真岡市、さくら市、那須烏山市、下野市
芳賀町、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、壬生町、高根沢町

3 調査内容

- ・本調査は、住民のある一日における移動の調査のことで、「どのような人が」「どのような目的で」「どこからどこへ」「どのような交通手段で」移動したか、などを調査し分析するもの
- ・調査対象市町の住民基本台帳から無作為に抽出した住民にアンケートを実施
- ・回収した調査票を集計・分析し、将来交通需要予測を実施

4 連絡協議会の設置

県及び調査対象市町において「県央広域都市圏生活行動実態調査連絡協議会」を設置した。

※交通実態調査の業務委託名を「県央広域都市圏生活行動実態調査」とする予定

[協議事項]

- ・実態調査に関する作業準備（調査対象者 計約13万世帯の抽出 等）
- ・実態把握に関する調査・分析
- ・実態調査による予測及び評価
- ・その他、実態調査に必要な事項

5 調査結果の活用について

- ・本調査は、将来的なIRTの需要予測や利用者の推計を行うことができるため、IRTの都市計画決定や特許取得の際の根拠として活用
- ・本調査で得られたデータは、県及び調査対象市町に提供予定
- ・調査対象市町においては、振興計画の見直しやデマンド交通の見直し等への活用を検討
- ・県においても、今後の道路政策や交通政策を進める上で必要となる、と認識
→ 応分の費用負担及び調査にかかる作業や技術支援等も協力いただいている。

[活用例]・・・参考資料参照

都市計画マスタープランの策定、都市交通マスタープランの策定、デマンド交通の検討、防災計画の策定、都市計画道路の見直し など

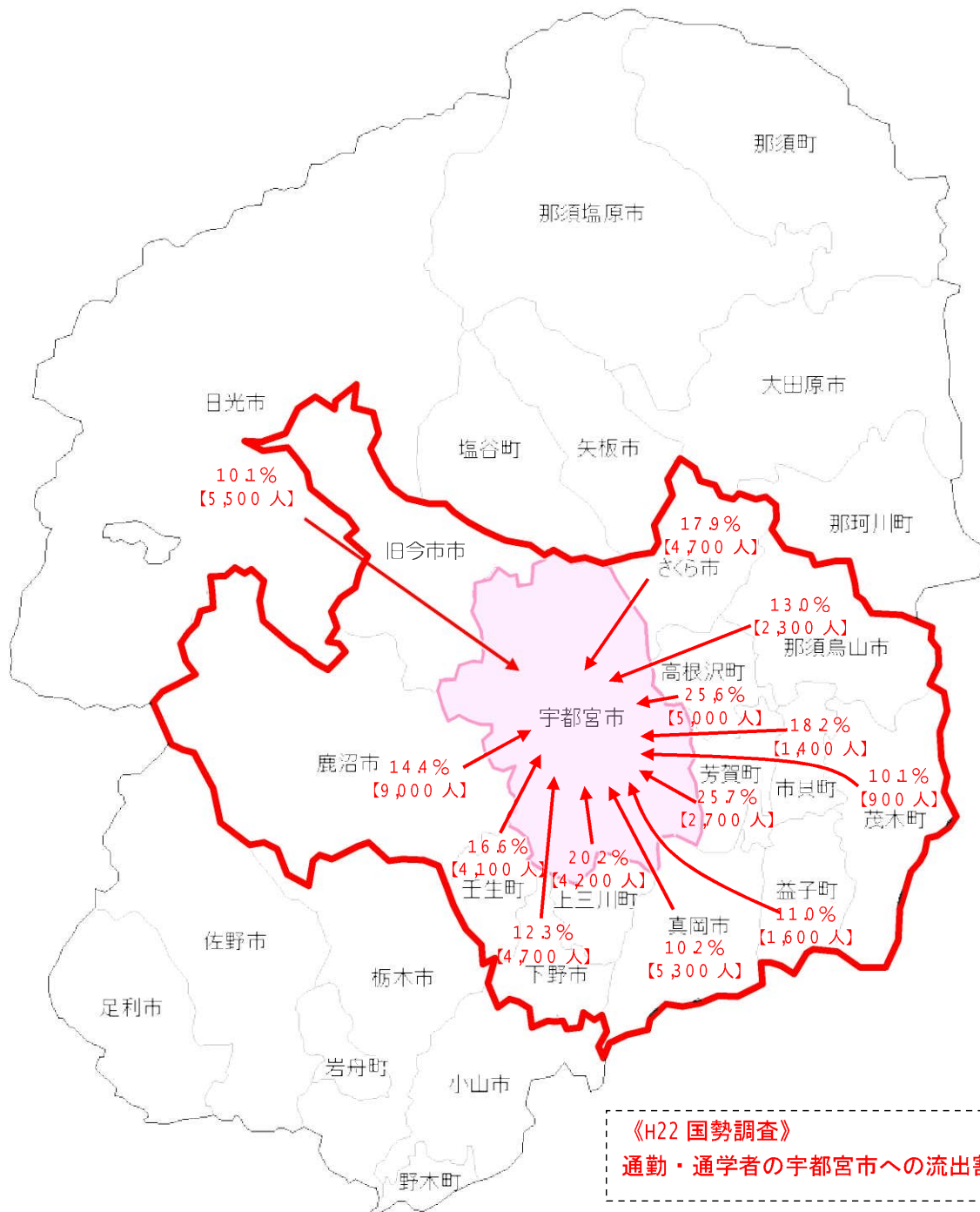
※本調査は、将来交通需要を予測するまでの調査である。本調査で得られたデータをさらに分析することで、上記のような検討を行うことが出来る。

6 今後のスケジュール（案）

H26.5月末 調査の実施

H27.2月 将来交通需要予測

■調査範囲



■活用事例

○都市計画道路の見直し

生活行動実態調査から推計した将来交通量は、道路ネットワークの評価等に用いられる。

○公共交通計画の検討

地域の移動の実態（どんな目的で・どれくらいの人が・何を使って移動しているか）を把握することができ、**デマンド交通の検討**や、**LRT延伸ルートの検討**に活用することができる。



○まちなまの把握

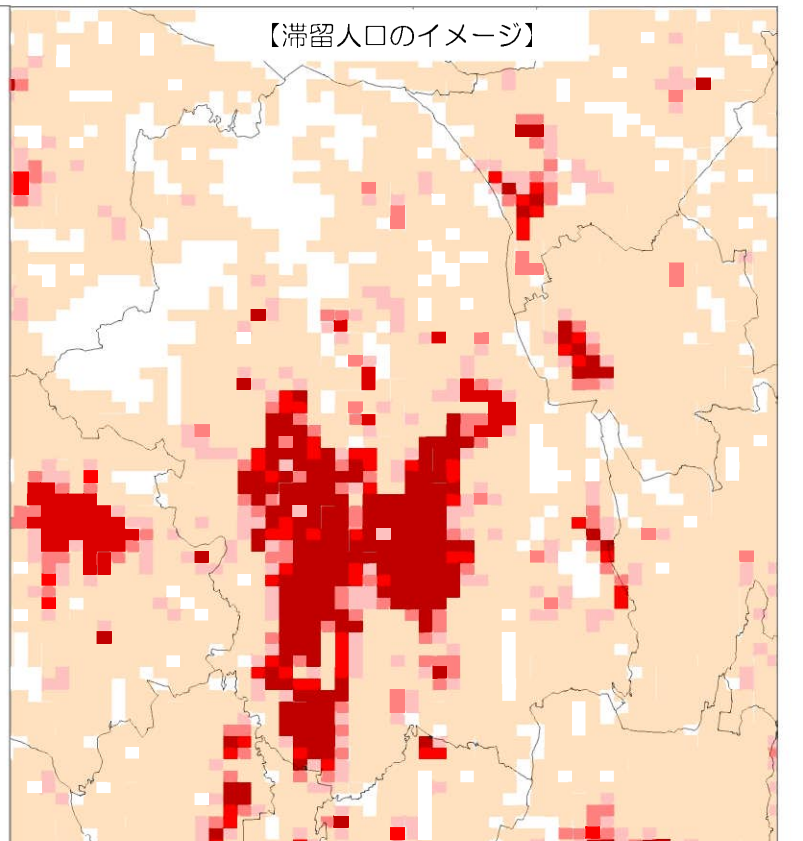
通勤・通学・買い物などの活動はどのような場所を拠点として行われているか、どこから拠点に来ているかを把握することができ、連携強化などの検討材料として活用することができる。

○都市機能配置の検討

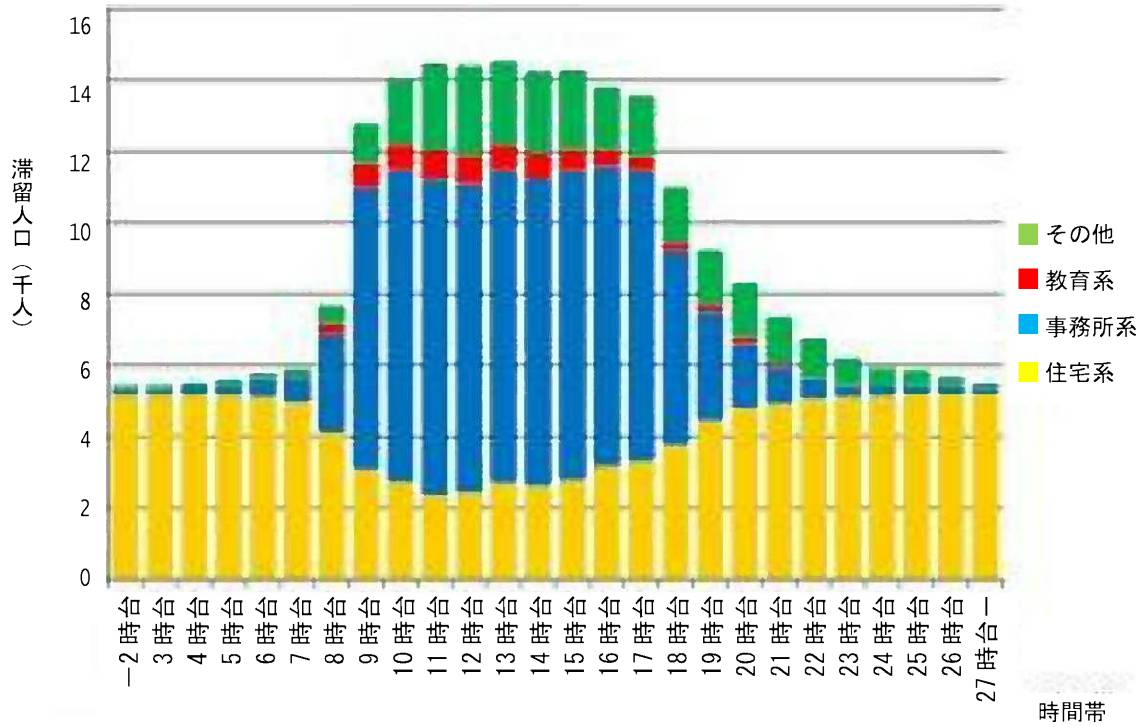
来街者層の推移を把握し、市街地活性化などの検討に活用することができる。

○防災計画(帰宅困難者対策の検討)

どの時間帯に・どの場所に、人が滞在しているか把握することができ、帰宅困難者の移動に伴う問題の分析やその対策の検討に活用することができる。



【**中心市街地**における時間帯別滞留人口のイメージ】



【**居住系郊外部**における時間帯別滞留人口のイメージ】

